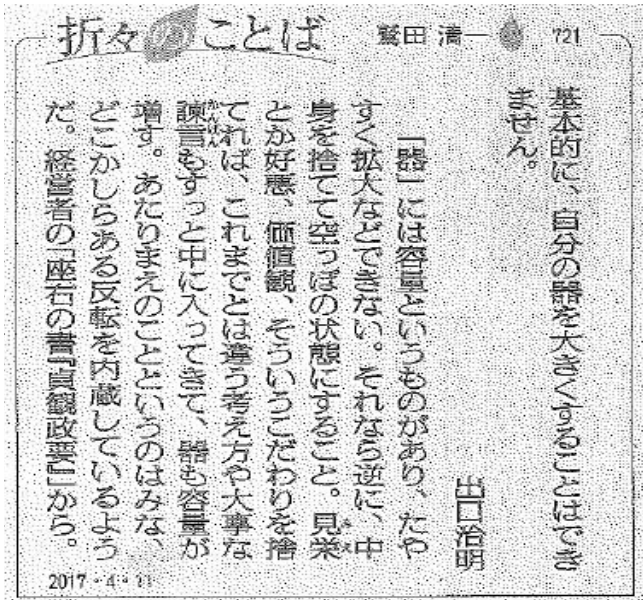




○ 容量

4月11日(火)の朝日新聞「折々のことば」にこのことが紹介されていました。
この4月から新しい職場についての私は容量不足を感じています。↓こんな感じですね。



器の大きくない私はこれまでの職でほぼ使い切ってしまったような感じです。今、新しい情報を理解し、吸収しようとしています。ある程度捨ててしまわないと入りきりません。「折々のことば」を読んでみて、出口氏が言われている意図とは違うかもしれませんが、捨てて吸収すると新しい自分に成長できるような前向きな気持ちになりました。「自分の器を大きくすることはできません。」というどちらかというと否定的な文(ことば)ですが、私には力をもらいました。

さて、本校の学生はどうでしょうか？容量は人それぞれ違うでしょうが、空き容量は誰にも十分にあると思います(右下のような感じ)。容量不足で入りにくい私に比べれば、何でも吸収できる若さがあります。情報機器の扱いにしてもすぐに慣れていきます。学生たちには「柔らかさ」という空き容量に学ぶ内容をどんどん吸収して行ってほしいものです。

自校自賛

学校の講義は今週始まったばかりです。

私にとっては講師の先生方も皆初対面です。講義の内容も初体験です。(学生たちは皆そうですね。)そういうことでちよくちよく教室にお邪魔して半分学生になっています。

その中で印象に残ったものを一つ紹介します。

幼稚園実習事前指導①の本校中村美智子先生の講義から～保育実習は経験済みの2年生に対して、保育園と幼稚園の



人形劇サークル「シャイン」の活動から

同じところ違うところを説明するところから始まりました。そして、子どもの見守り方・声のかけ方・留意点などなど、さすがは現場経験の豊かな先生です。中学生相手を長く、小学生相手を少々経験しただけの私にはすべて新鮮な講義内容でした。今、「アクティブラーニング”なる言葉が出てきていますが、そのことにも関連する内容がありました。小学校(中学校も)の新採用の先生(ベテランにも)に、この講義をぜひ受けさせたいということを最後に思いました。

